

テーマ:

気付きを深め、学びを広げる、生活科(凜々子栽培) を核とした合科的・関連的な指導

宮城県大和町立吉田小学校

齋藤 賢一 先生

●小学校2年 ●生活、国語、
図画工作、算数

この活動の特徴

「凜々子」活用のポイント①

オリジナル「生活科シート」の
五感を使った観察記録で
活動の連続性を実感

「凜々子」活用のポイント②

デジタルカメラを使って
収穫の感動をリアルに記録

「凜々子」活用のポイント③

発表の場を多く設定し
「伝える力」を養う

活動のねらい(子どもにつけたい力)



- 年間を通した体験活動(凜々子の栽培)を通して、体験したことや調べたことを互いに伝え合ったり、交流したりする
- 自分の考えや思いを相手に伝える力をつける
- 物事を関係的に見たり、筋道を立てて考えたりする力を育てる

活動の概要と流れ

対象学年 : 2年生(15人)

実践期間 : 5月~12月

時期	学習活動
5月12日 常時活動	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培場所を2ヶ所に設定、各自1本ずつ苗を植える。 ・活動の記録は、学級独自に作成した「生活科シート」に記録していく。 ・世話をして気付いたことについて、発表会をし、全員で共有する。
5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小交流を行っている幼稚園の先生へ、活動のようすを伝える手紙を書く。
8月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式の後、トマトを収穫し、冷凍庫で保存する(約100個収穫)。また、収穫時の「凜々子と自分」の様子を、各自デジタルカメラで撮影する。
8月下旬~	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫時の写真を使って、クレヨンと水性絵の具で絵画表現を行う。(第29回みやぎ児童絵画展に出品)
9月初旬~	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに記録した「生活科シート」を使って活動を振り返り、観察文としてまとめる。(作文宮城郡審査会に出品)
9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・学年PTA行事の際、親子で「凜々子シャーベット」を作る。
12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の観察記録を行い、畑と鉢を片づける。



ここがポイント！ 取り組みの工夫

2ヶ所で栽培し、栽培条件の違いによる生長の変化を知る

苗が48本と児童の人数より多く届くため、栽培場所を2ヶ所設定し、栽培条件の違いによる生長の変化に気付くよう工夫した。

1ヶ所は、学年農園畑に、もう1ヶ所は児童が毎日世話できるよう教室前のベランダで、アサガオの鉢(牛乳パックで土の量が多く入るようにしたもの)に、それぞれに1苗ずつ植えた。子どもたちは世話や観察を通して、草丈や実の数などの生長の違いに気付き、3学年以降の学習範囲である、土(養分)の量と根の生長の違いにも自ら気付くことができた。



学年農園畑↑と鉢栽培↓



活動の振り返りに効果的なオリジナル「生活科シート」

活動の記録は、後で振り返りができるように、学級独自に作成した「生活科シート」に記録していった。

初期の観察では児童が取り組みやすいよう「目・鼻・手・心で感じたこと」を記録した。また、算数と関連付けて定規を使って高さや幅を測り、花や実の個数は数唱した。



花の長さ 120cm
360cm
みは2-の10cm
みは1-の8cm
みは3-



110枚

凧々子 14

名前

六 月 三 日 水 曜 日 天気 曇り

し	せ	ま	や	い	臭	じ	四	六
り	早	し	み	が	み	た	み	名
た	く	た	が	し	が	が	三	前
い	り	。	ざ	ま	ら	。	。	。
て	り	。	ら	し	。	。	。	。
す	こ	。	さ	。	た	。	。	。
。	の	。	ら	。	。	。	。	。
。	あ	。	し	。	の	。	。	。
。	じ	。	て	。	に	。	。	。
。	を	。	い	。	。	。	。	。

この「生活科シート」は、最終的に23枚となり、作文指導や手紙の作成で各自が活動を振り返る際に大いに役立った。

発表の機会を多く設けることで、伝える力を高める！

「凧々子」栽培の体験活動を通して、子どもたちに自分の考えや思いを相手に伝える力をつけたいと考え、生活科シートの記録や、作文表現、絵画表現など、多様な表現活動を設定した。また、完成した作品は、発表する場を設けるようにした。

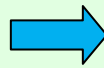
「凧々子」の世話を続けていく中で気づいたことは、発表会を開いて全員で共有するようにした。子どもたちは自分自身の言葉で気付いたことや調べたことなどを発表し、友達の発言からは新たな気づきを得て、相互理解を図ることができた。



興味・関心を高めた取り組み

デジタルカメラを使って記録した収穫の喜びが、いきいきとした絵画表現に！

絵画表現では、収穫時の思いを振り返れるよう、各自デジタルカメラで収穫の様子を撮影し、後日全員に配布した。これを元に「両手に抱えきれない数の凧々子を収穫した喜び」をイメージして絵を描こうと伝え、身近な画材のクレヨンと水性絵の具を使って絵を描いた。すると、収穫時のトマトの感触や喜びなど、その時の状況がすぐに思い出されたようで、全員が収穫時の自分の姿をいきいきと描いた。ある児童の作品は第29回みやぎ児童画展の「大賞」に選ばれ、世界児童画展にも出品された。



子どもたちの気付き、実践の成果



「生活科シート」に記録された植物への優しさや思いやり

「生活科シート」には“心”で感じたことも記録していった。

「早く大きく育ててね」「早くりりこのあじをしりたいです」

「自分でそだてたりりこをぬきたくないです」など、子どもたちの心の細かい動きが丁寧に記録されており、植物に対する優しさや思いやりが高まっていることが明らかとなった。

さらに、後の作文表現でも、自分でその時の感情を思い出し、心の変化を上手に表現することができた。



収穫したトマトを使って親子でシャーベット作り体験し、苦手なトマトを克服！

学年農園で収穫したトマトは冷凍保存しておき、夏休み明けのPTA行事で、保護者を招待して親子で調理することにした。今年は猛暑ということもあって、メニューはティーチーズガイドの中から「凜々子シャーベット」を選択した。

デザートで食べやすかったこともあり、トマトが苦手な食べられなかった児童も、食べて“おいしい”と感ずることができた。



栽培活動の連続性を感じ、順序を考えて書く力が向上

書き貯めた「生活科シート」を使って活動を振り返り、観察文を作成した。これまでの活動をつなげて見ることで、活動の連続性を感じることができ、順序を考えながら、書く力が向上した。

また、幼小交流を行っている幼稚園の先生方に手紙を書いたことは、栽培のようすや喜びを伝えるだけでなく、自己成長を感じるよい機会となった。

■児童作文より抜粋（平成22年作文宮城郡審査会に郡入選）

ぼくたちは生活科のべんきょうで、クラスみんなでトマトをそだてようと話し合いました。

ぼくはトマトがにがてです。食べられません。でもみんなといっしょに、がんばってそだててみようと考えました。にがてなやさいを好きになりたいとねがって、そだてようと思ったからです。

（中略）

ぼくは、自分が育てたトマトだからがんばってみようと思い、ゆっくり一口食べてみました。

（あっ、あまくて、おいしい。）
みんなで育てたトマトだから食べられたのかな。

先生から一言！ 実践を通して

4月当初、子どもたちには自分の考えや思いを伝えることや、物事を筋道立てて考えることを苦手とする面がありました。そこで、子どもたちが意欲的に取り組める「凜々子」栽培を体験活動の核として、生活科の他に国語（作文、手紙作成）、算数（長さや数）、図画工作（絵画表現）と関連させた年間の取り組みを計画しました。

活動を通して続けた生活科シートや作品作りは、子どもたちそれぞれが自分自身を振り返るよい機会となり、自分の成長を実感できる学習活動になったと思います。



受賞理由



多くの学校で行なわれている「観察」。単に、目の前にあるものを記録するだけでなく、後で振り返りができるように記録することが、とっても大事なだね！

それから、みんなの発見や感動を発表する場をたくさん設定したことで、みんなが頑張ったことやその時に感じたことを、たくさんの人に伝えることができたね。こうしてボクにも、みんなの喜びがしっかりと伝わってきたよ～！

人に伝え、伝わることで、共感が生まれ、それが子どもたちの達成感にもつながるんだってこと、改めて教えていただいた、すばらしい取り組みでした！！